

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度 第1回所沢市学び創造プラン推進委員会
開 催 日 時	平成26年5月29日(木)午後3時～午後4時30分
開 催 場 所	所沢市立教育センター セミナーホール
出 席 者 の 氏 名	〔委員〕赤堀侃司白鷗大学教育学部長・教授、中村隆小学校長会長、酒井通中学校長会長、木村良孝小学校PTA代表、廣田美由紀健康づくり支援課栄養士、石井のぶ江社会教育課主任(橋本浩志社会教育課主査の代理)、野澤和也スポーツ振興課副主幹、田中和子所沢図書館主査、杉本恵美保健給食課主査、宮下広子南小学校区こども会育成会元会長、北田憲一市スポーツ少年団副本部長、小出敦子NPO子ども大学ところざわ代表理事、大寄尚子所沢第二幼稚園長、鈴木恵小学校主幹教諭、阿部英貴中学校教諭
欠 席 者 の 氏 名	島田高志中学校PTA代表
議 題	1 協議及び報告 (1) 本委員会について (2) 「学力向上に向けた3つの目標と取組」について (3) 学び創造プラン学力向上推進事業について (4) 協議及び報告
会 議 資 料	1 所沢市教育振興基本計画 一部抜粋 2 平成26年度所沢市教育行政推進施策 一部抜粋 3 所沢市学び創造プラン推進委員会 説明資料 4 児童生徒の学びを創造するところざわプラン<学び創造プラン>学力向上推進事業【大綱】 5 学び創造プラン推進委員会 協議資料 6 <学び創造プラン>学力向上推進事業 スタンダード研究校・クリエイト研究校
担 当 部 課 名	学校教育課 電話04(2998)9238 出席者 内藤隆行教育長、山口勝彦学校教育部次長兼学校教育課長、沼田芳行学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、出居正之学校教育課副主幹、日下宏之学校教育課指導主事、鈴木克彦学校教育課指導主事、小山義昭学校教育課指導主事、佐藤佳岳学校教育課指導主事、大舘直美教育センター指導主事

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
司 会 (指導主事)	本日の記録は要点記録とし、発言者は、すべて「委員」として記録する。
	<b>開会</b>
司 会	進行は事務局の日下が担当する。平成 26 年度第 1 回所沢市学び創造プラン推進委員会を開会する。
司 会	教育長より挨拶申し上げる。
教育長	<p>教育委員会には、平成 23 年度から教育基本法に基づく所沢市教育振興基本計画があり、8 年間の平成 30 年度までを展望した計画である。この教育振興基本計画に基づき、毎年、主要教育施策を掲げて予算の執行を含めて事業の推進に努めているところである。</p> <p>これまで生きる力を育むということから、色々な場面に遭遇しても逃げ出さないで何とか解決していく、そういう意味で逞しく生き抜く力ということを教育行政に一番必要であると考えてきた。しかも、このことは、小・中学校のいわゆる普通教育に関わらず、青少年や高齢者の生涯学習、あるいは生涯スポーツや文化振興など、教育行政が関わるあらゆる部門で、逞しく生き抜く力を訴え続けている。例えば、高齢者の孤独死は、男性が多い。女性は、電話で連絡を取り合ったり、お友達をつくったりするなど、普段からネットワークづくりができています。ところが男性とりわけ本当に具合の悪い方は、介護機関とか障害者支援センターなどと連絡を取り合っているが、少し元気な高齢者が単身でいると、突然倒れる場合がある。みんなで楽しく生き抜く意味で、この逞しく生き抜く力は、赤ちゃんからお年寄りまでつなぐ理念であると思う。特に、青少年に関しては、厳しい労働環境の中でしっかりした仕事や社会的な自律をしていくために、やはり確かな学力が必要である。この 3 年間、学び改善プロジェクトで、学びの改善を通じて確かな学力を身につけようと取り組んできた。委員長をはじめ、委員の皆様の御指摘・御指導をいただき、この 3 年間の取組でかなりの成果が出てきていると自負している。そして、この 3 年間の実績を総括し、PDCA サイクルでもしっかり位置づけ、学び改善プロジェクトの成果の教訓に立ち、次のステージをスタートさせた。</p> <p>後ろにもどるようでも螺旋的に上に上がっていく感じである。螺旋的な向上は、古い登山列車に例えるとスイッチバックのようである。また、もどるようだが、一歩あがっていくという形で新たなステージを展開していきたいと考えている。色々名称を考え、学び創造プラン学力向上推進事業、学び創造プランと決まった。名称を決める中では、学びを向上させるということで学びアップはどうかという意見があがったが、学び創造、創造クリエイティブ、これは、先生も教師集団も新たな指導法を見つけ、新たな改善をし、先生が提案しなくても、子どもたちが自分で気づき、ある分野</p>

	<p>に関心を持って勉強を続ける。そのような、創造していくという期待をかけたネーミングである。そうした事業を今回進めていく上で、学力について指導主事より説明があるが、ペーパーテストの結果だけではないわけで、意欲だとか関心だとか定着、あるいは学習に向けての手配をどうするかなど、学力の要素というものを多角的にとらえながら総合的な学力の向上を目指していきたいと思っている。</p> <p>本委員会は、それぞれ専門の立場から意見をいただきながら施策を進めていく大事な会議である。これと並行し、小中学校の現場の先生方を中心とした現場スタッフのワーキンググループも用意していく。同時に学校クリエイイト研究・学校スタンダード研究、要は、学校に一定の課題をもたせ、年間を通して研修研究をしてもらおうということである。委託事業も、わずかだが一定の予算を学校に提供し、組んでいく予定である。今日は、平成26年度の第1回目ということで色々とお世話になるが、よろしく願いたい。</p>
司 会	委嘱状の交付を行う。今年度の委員を委嘱する方に委嘱状を交付する。
司 会	委員の紹介並びに事務局自己紹介
司 会	委員長を選出を行う。設置要綱第5条により委員長については、委員の皆様の互選となっている。いかがか。
委 員	赤堀先生に願いたい。
司 会	拍手多数ということで赤堀先生に願いするというのでよいか。 赤堀先生に願いたい。
委員長	<p>今回は、新しいプロジェクトというか、学び創造プランを進めていく。前回は勉強させていただき大変良かった。特にいろいろな地域との関わり合いがあり、よかった。教育というのは、見えるようで見えない部分がたくさんある。ノーメディアチャレンジとか学力向上や体力の問題とか、いろいろなデータを見ると向上しているのだということが分かった。3年間を通してみてやはり向上していた。所沢市の研究指定校に行かせていただいて気づくことは、確実に子どもたちが変わっているのだということを見させていただいた。</p> <p>そういう意味で、創造プランというもっと先をいく改善プランをさらにつくり出していく段階に入ってきた。大変うれしく思っている。どうぞ忌憚のない意見を賜り、実りあるものにしたいと思っている。</p> <p>では、事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局	プレゼンによる説明
委員長	<p>的確で分かりやすい説明であった。</p> <p>これから、時間があるので情報交流の時間にさせていただきたく。協議資料にメモ等できるので、書き込みながら全員が発言できればと思っている。学校での取組の提案、家庭でも家読(うちどく)を含めた新たな提案、地域でも行事参加等いろいろなことがあるのでそこら辺から御意見いただきたい。</p>

	事務局の方で何か。追加は、あるか。
事務局	学力向上に向けた3つの目標と取組に関して、それぞれ学校・家庭・地域で取り組む内容が、それぞれ書いてある。それぞれの立場で取り組んでいることがあったら、出していただきたい。
委員長	現在どんな取組をされているかということを含め、今後の方向等、自由に意見をいただきたい。
委員	松井小学校では、学び改善プロジェクト3年間の取組の中で、東中学校区での取組をした。23年度に松井小学校が研究概要を発表し、24年度に牛沼小学校、そして25年度に東中学校が研究の発表をした。中学校区で学力というものを3校で考えながら学力向上についての話し合いをしてきた。具体的な取組は、学び改善プロジェクトの時に示されていた目標をきちんと明示していくことや子どもの言葉で授業のまとめをしていくことを、学習規律の統一とともに、3校同じような研究の発表をしてきた。事務局から成果についての発表があったが、この東中学校区の3年間の取組でも、やはり学力向上について少しずつではあるが、成果が見られている。それは、県の学力状況調査で得点率が上がっていること、それから教員の意識が高まっていることなどの成果があった。今度はこれが、学び創造プランということでさらに進めていくために、東中学校区で同じ中学校で学ぶ牛沼小・松井小とともに歩調を合わせていきたいと考えている。それが研究の方向に向けた一つの流れである。2点目は、家読の提案である。これは、松井小学校の立場で話したい。松井小学校は、他の学校よりも多くの蔵書がある図書館を与えていただいている。ここ3年間で利用者数を増やすという取組をしてきた。この松井小学校図書館は、地域開放型図書館としての条件の中で利用されてきたが、小学校の図書館としての利用率も上がってきた。貸し出し冊数も増えてきた。家読の取組を進めていく中で、より一層、松井小学校図書館の利用に向けて研究を進めたい。
委員長	小学校の取組、大変有意義に取り組んでいるようだ。中学校ではどうであるか。
委員	中学校の3年間の取組で中心に行ったものは、小中連携の中での先ほどの発言のように学習規律を中心にした指導方法の共通理解と共通行動により、授業をしっかりと成り立たせていくということである。やはり目標を明確にして、本時のねらいが子どもたちにわかるような授業にしていくことが中心であった。実際に県の学力状況調査や所沢市のステップアップ調査等で経年変化ではないが、学校評議員会で、授業に対する姿勢についての話があった。勉強しようと思欲ある生徒が増えてきているという話であった。今後の取組について、市の学び創造プランがあるが、西部教育事務所でも学力向上に向けてやはり目標を明確にするということと、子どもの言葉でまとめるということを打ち出している。先生によっては、題目を目標としている場合と子どものためのねらいを目標としている場合の両方がある。県では、先生の視点と子どもの視点と両方を明確にするという提案がある。これは、市の方でもぜひ取り入れて、ただ

	<p>ねらいを明確にすることを表面的ではなく深く与える、そのような視点で先生にも意識してもらって進めていくのが一つである。</p> <p>もう一つ、富岡中学校区で今年行っているのが、目指す児童像を統一しようということである。中学3年生までの目指す児童像を小中で共有することによって様々な面で小中の連携が図れる。この中で「ふるさと所沢を愛する心」という言葉があるが、富岡では、「ふるさと富岡を愛する心」を育てるということを、子どもだけではなく地域の方にも啓発していく。柱をしっかりと学校同士で共有することで発展していくという見通しのもと、新たに創造プランを推進している。</p>
委員長	<p>小中一緒に研修会を開いているが、小学校の教え方のきめ細かい教え方を中学校の先生が非常に評価している。また、中学校の教科の専門性を小学校の先生が学んでいる。小学校の課題を中学校へ引き継ぐなど、うまく連携ができていますが、若干、文化の違いがあると感じる。小中の連携についてもう少し伺いたい。</p>
事務局	<p>小中連携研修会に関しては、すべての中学校区で小中連携の研修ができるように予算もつけて、各中学校区でできるようにしている。</p>
委員長	<p>この学び創造プランとは別のプランなのか</p>
事務局	<p>学び創造プランの中で小中連携研修を行うことになっている。</p>
委員長	<p>是非推進をお願いしたい。</p> <p>先ほどの目標を明確にすることと、子どもの言葉で学習のまとめをするということ、小中連携の内容が更に明らかになってきたが、小学校では、具体的にはどうしていくのか</p>
委員	<p>牛沼小学校も東中学校区で松井小学校と一緒に進めてきた。赤堀先生には、平成22年度から夏の小中連携研修会で御指導いただき、学力向上のための学習規律について6つのテーマで取り組んできた。授業のはじめの挨拶、授業での目標を明確することなどである。牛沼小では算数の研究を平成22年度から24年度までしてきたが、先生方は、目標を明確にすることが定着して、算数のみならず理科、図工、社会などでもそのような姿が見られるようになってきた。昨年度の指導担当訪問では、児童の言葉で学習のまとめをするように職員にも声をかけ取り組んだが、教師が「まとめましょう」と伝えても、子どもがどう書いてよいかわからないという状況であった。めあてとまとめが対になっているので、意識してまとめていくよう指導しているが、まだまだ本校の課題である。何か評価基準的なものを設け、このくらい書けるといいというような、教師側も児童にきちんと教えられるような工夫が必要であると、考えている。</p>
委員長	<p>まとめるということは、多分レベルが高いのではないのかと思う。自分の頭で考えまとめるわけだからである。中学校では、まとめとか今後の取組については、どう考えているのか。</p>
委員	<p>本校でも以前の学び改善プロジェクトを継承し、本時のねらいを全教科全クラスで提示している。しかし、提示の言葉が明確でなかったり、子どもの立場でねらいを提</p>

	<p>示していなかったりすることが課題である。それと教員がしゃべり過ぎることなど、生徒たちの意見をうまく引き出せる発問の工夫についても課題となっている。まとめの仕方において、中学校のレベルでどこまでできるようにさせるべきかが課題である。授業を行っていて、生徒が自分の言葉でまとめる際に、不安を感じている様子を見てとることができる。本当の意味で完全に理解できていれば、本当の意味で自分の言葉でまとめられるのだと思う。</p>
委員長	<p>実は、大学でも同じである。自分の言葉でまとめて伝えるということは、なかなか難しい。要するに今の学生は、単語レベルは当たり前だが、それを組み立てて文章化して、しかも論理的にするという知的作業が難しい。きちんとした文章が書けるのは、結構優秀な学生ぐらいである。言語活動の充実というのはどこかに生きているので、これは新たな大きなテーマであると思う。実践的な意味でノウハウを積み重ねていただき、所沢に広げていけば一段と上のレベルの学習になるのではないかと考える。</p> <p>地域あるいは、家庭という視点ではどうか。</p>
委員	<p>学び改善プロジェクトの時も議論になったが、学力というのはやはりテストの結果の学力だけでなく体力も学びの一つである。今回の文章を見ているとほとんどが学力向上に向けたものばかりで、体力面ではどう進めるのか分からない。クリエイト研究の一番下の方に体力について書かれてあるが、どうしても学び＝学力というのが気になる。</p> <p>新しい取組である学校クリエイト研究・学校スタンダード研究の中で、それぞれの小・中学校では、学力だけでない研究をするのが見えてくるといいと思っている。</p>
委員長	<p>スポーツ振興課としては、今の意見に対してどう考えるか。</p>
委員	<p>自分がここに参加しているのは、体力向上、運動好きな子どもに育てるためにいるのだと自覚している。教育長が話したたくましく生き抜く力は、まさしく体力からだと思っている。そこから学力向上に結びつけられたらいいと考えている。</p> <p>所沢市の小・中学校の児童生徒の体力については、教育に関する3つの達成目標のはじまりの年である平成17年度と比べると、体力的には非常に向上している。全国的には、小学校は概ね全国平均並、中学校は全国より少し良い。</p> <p>県平均で見ると中学校は非常に優れており、小学校はやや劣っているという結果が出ている。埼玉県は全国的には、6位か7位である。学び創造プラン取組の4つ目にある。新体力テストのデータを中学校では、個人に返して目標を持たせている点で進んでいる。小学校は、まだ個にデータが返っていない状況である。</p> <p>地域との教育力の活用という点では、駅伝競争大会、これはスポーツ少年団との合同運営である。早稲田大学・西武ライオンズ・さいたまブロンコス等や地域の方々に、学校へ直接出向いていただいている。今年は、地域を活用した運動好きの子どもを育てる事業を立ち上げる予定である。</p>

委員長	<p>その他いかがか。</p> <p>家読という新しい取組についてのご意見やノーメディアチャレンジについてもご意見を伺いたい。</p>
委員	<p>引き続き家読、ノーメディアチャレンジを推進していく。</p> <p>家読に関しては、図書館と提携してランキング等、きっかけづくりを通して取り組んでいく。所沢小学校は、支部での活動が強く、町内会と学校との結びつきが強い。地域と連携して、所沢祭り等にも積極的に参加している。9つの山車等を出して参加し、先生方とも連携して学校の外での関係づくりをしている。</p>
委員長	<p>地域という点ではどうか。</p>
委員	<p>学校・家庭・地域と言われているが、家庭や地域へ啓発していくことを考えると、すごく漠然としているような気がする。家庭にも様々あり、地域にも様々ある訳だが、いろいろなことを進めるには、家庭や地域には、働きかけていかなければいけないと思う。やはり学校から家庭や地域へ呼びかけるなどの働きかけが必要である。</p> <p>家庭での家読だが、音読という宿題があるが、それは家の方に関わってもらわないといけいけないので、意図的に宿題として課題を出してもらい、家の人に関わってもらえるよう学校でも進めてもらいたい。また、地域の方は、パトロール等で見守っていただいているのだから、保護者も地域の一員として地域の行事等に積極的に参加してほしい。自分の子どもたちも地域に見守っていただいているのだから、恩返しの意味でも関わってほしい。こども会育成会を担っていくお母さんは、隣近所のつながりを大切に、人と関わることのよさを学ぶことができる機会は大切である。</p>
委員長	<p>小学校では、家読のような宿題はあるのか</p>
委員	<p>毎日、音読の宿題がある。</p>
委員長	<p>朝の読書、朝読は取り組まれていると思うが、中学校ではどうか。</p>
委員	<p>本校では朝読は実施していないが、やっている学校はある。</p>
委員	<p>学校では経験できない学びの場を、早稲田大学・秋草学園で提供している。</p> <p>小学校では、特別活動が効果的であった。今年も、表現をすることについて、ダンスを通して体で自分の思いを表現していくことや、食育面では、食を挟んで家庭内のコミュニケーションを図るために、所沢の郷土料理を家庭でも話をしながら作れるような講義を入れている。向上心のある子にとってはいいのだが、いろいろな子どもがいるので、その点が課題である。学びたいけど、どう学んでいいかわからない子どももいる。家読は、家庭内で親が関わってくれない子に対してはどうやって推進していくのか。学校の先生方だけでやれることではない。学校は組織として進められるが、家庭は色々な家庭があるので一律に進められないという課題が出てくる。どうバランスをとっていくか、子ども大学にもある課題なので、これから勉強していきたい。</p>
委員長	<p>子ども大学とは、子どもが来るのか。</p>
委員	<p>そうである。小学校4年から6年生が対象である。毎月土曜日に行っている。</p>

委員長	幼稚園という立場ではどうか。
委員	幼稚園では、家庭の取組のあり方や保護者の考えが、本当に子どもたちへの成長発達に大きく影響していると感じる。保護者会では、子どもは親の言う通りにはしないで親のやる通りにすることを伝え、子どもは親の背中を見ているのでモデルになるよう話している。家読だが、図書館で本を読まない子を0にという取組があるので、絵本が好きな子を育もうということを主にして絵本を見る機会を増やしてきた。幼稚園は、その活動として、保護者には年1回、読み聞かせを実施してもらったり、園児は金曜日に絵本を借りて土日に親に絵本を読んでもらい、月曜日に返す活動も行ったりしている。また、図書館を活用して、絵本に親しむ機会や、公共の場の使い方を学んだりしながら、絵本好きな子を育もうとしている。
委員長	図書館の話が出たのでいかがか。
委員	今年の3月に、第2次所沢市子どもの読書活動推進計画が策定された。平成21年度より連絡会を設置し、小中学校、高校、幼稚園、保育園、児童館等関係部署が連携し、子どもの読書活動推進についての情報交換を行ってきた。 国の「第3次子どもの読書活動推進に関する基本的な計画」の中にも「家庭ふれあい読書（うちどく）等の推進」という項目が入っている。図書館でも、市内8館全館で読み聞かせや昔話など、様々な事業を実施している。学校教育課の家読ポスターなどがあれば館内に掲示する。また、家庭教育学級や出前講座、図書館行事などの中で普及啓発活動を進めていく。
委員長	小・中の連携、地域・家庭と連携の取組を紹介していただいたが、地域行事の参加はどうか。
委員	幅広く展開している。家庭と地域の部分は、社会教育課である。地域に関しては、地域の教育力向上を目指している。基本的には、社会を良くしようと団体の方々の活動を支援し、充実に努めている。PTA・こども会等への支援もしている。 他にも17団体へ補助金を出し応援している。たくさんの活動があるが、学校側と社会教育側と情報と共有できていないのが課題である。PRしていきたい。
委員	母の立場と母子担当の支援している。地域の中でお母さん同士を結びつけるようなことを推進している。食は、生きる土台である。
委員	学校給食を通して子どもたちと関わっている。地域との関わりとしては、家庭教育学級を通じて食の大切さなどで関わっている。学校では、栄養士を通して授業で応援している。授業研究も年1回、各学校で行いながら食の大切さを広めている。
委員長	家読の議論があったが、これは、家庭との連携が無いと無理である。この点が、課題になりそうだ。 もう一つ、特別支援教育を視点に充てた話にはあまり触れられていなかったが、そういう子どものケアをどうするか。学び創造プランは、そういったことを踏まえて一歩先のプランであるので考えてもらいたい。



	事務局からもご意見をいただきたい。
事務局	課題は、やはりたくさんある。特別支援教育を視点に充てた子どもへの支援・食育・家読などである。いかに家読を充実させるかが課題となるが、私が担任の頃、音読カードを宿題として出していた。家で聞いてあげる人がいないという話題もでた。その点をどうするかを話題にしていければいいのではないか。
事務局	スタンダード研究とクリエイト研究について少し話をする。 学び改善プロジェクトから続く学校で授業研究を行うことは、今はどの学校においても、恒常的に行われている。そこでスタンダード研究と名づけた。ここから、さらに進んで子どもたちの言葉で学習のまとめをする主体的な学習につながるようにしていけたらと考える。 クリエイト研究では、国立大学附属小・中学校等で行われるような研究を、普通の公立校でもできるということを目指していきたい。研究校で授業研究を実施し、2月には発表会がある。市内のある中学校では、学校における授業公開においても、授業者、学習のめあて、内容を示した授業公開の案内パンフレットを作成し、保護者に配布し、授業力の向上を目指している活動も行われている。
委員長	教育委員会のリーダーシップのもと、学び創造プランが進んでいくと思うが、学校と家庭と地域で連携していく授業やクリエイト研究にも期待している。魅力的な研究成果を期待している。
司会	これで閉会する。